

【評価実施概要】

事業所番号	0171500556		
法人名	医療法人 やわらぎ 会		
事業所名	グループホーム やわらぎ		
所在地	〒049-0101 北海道北斗市追分62番42号 (電話)0138-48-1555		
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構 K ネット		
所在地	〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目7 愛生館ビル601B		
訪問調査日	平成21年3月28日	評価確定日	平成21年3月31日

【情報提供票より】(21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 1月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人, 非常勤	人, 常勤換算8.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く) 暖房費110月~4月(月 円)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	29,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	3名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 82.2歳	最低	64歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	函館脳神経外科 よこやま歯科 山谷医院 かみいそペイン・クリニック
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な敷地の中に、介護老人保健施設の他、診療所を中心に当事業所も含む、5つの介護施設が建ち並び、認知症ケアの地域拠点となっている。鳥が両翼を広げたような建物の中は、天井が高く、明るく、両サイドにA、Bのユニットがある。職員も利用者もゆったりと穏やかで、双方の関係が信頼の上に成り立っていることが伺われる。法人の総括事務長並びに総合ホーム長でもある管理者は、職員の育成に力を注ぎ、働きながら資格を取得させ、現在、介護支援専門員、介護福祉士、各4名ずつ、8名の有資格者を誕生させている。職員同志も互いに支え合い、良い環境の中にある。今後、一層の知識や技術の向上を目指し、更なる取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部)
	前回の改善点は不明。平成17年9月以来、今回が2回目となる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	各項目について職員が分担し、それぞれが評価した結果、全員で議論し、最終的に今回の評価となった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	平成20年9月 ホームの活動を報告した。消防訓練の方向性を決め、利用者が倒れたときの対応の仕方など、講習の内容に入れる。20年12月、消防より緊急救命講習を受ける。成年後見制度を知りたい。(答え)北斗市包括支援センター職員による説明があった。灯油の値上がりで、暖房費の値上げになるか。(答え)今後の動向を見て検討中。3月28日調査訪問時の答えは、値上げなし。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に重要事項説明書と国保連のポスターを掲げている。また、契約書に苦情処理システムを掲載しており、入居時には必ず説明している。現在のところ特に苦情などは無い。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内行事への参加や学校行事にも参加している。運営推進会議にも町内会の方、学校の教員の参加もあり、祭りなどには小学生と教員が一緒になって、事業所前まで神輿を担いで来てくれている。徐々にだが地域との連携が深まってきている。

評価結果(詳細)

NPO法人 福祉サービス評価機構 Kネット

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4月の介護保険制度改正に伴い、独自の地域密着型理念の草稿は出来ている。全員会議で決め、4月1日から実施予定としている。		草案も出来ている事でもあり、是非、実施に向け努力されることを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	4月からスタートする地域密着型理念に対し、管理者、職員は実践に向け日々話し合いをし、共有出来るよう取り組んでいる。		4月より新しくなる理念について、全職員が把握出来るよう、ミーティング等で再三話し合われるよう望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の行事への参加や、追分神社祭典など、地域の活動に参加し交流を深めている。特に、祭りには近くの小学校教員が指導する子供みこしを利用者は毎年楽しみにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、自己評価については全職員が項目を分担し、評価に当たっているが、外部評価は近年実施していない。最終外部評価公表日は平成17年9月14日であった。		法人の総括事務長と管理者は、外部評価の実施の意義を職員と話し合い、これを活かした取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年9月に実施された会議に於いて、利用者家族より意見が出され、2点については早速改善されている。また、消防署員より指摘された居室の家具等の配置も改善されている。</p>		<p>灯油値上がりに伴う、暖房費の支払いについて 現状通り、値上げなし。</p> <p>成年後見人制度について 包括支援員より説明を受けた。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>生活保護に係る入居者がいる為に、市役所のケースワーカーが、月1回事業所訪問している。また、電話やメールでも連絡を密にし、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>会報を3ヶ月に1回発行し、行事の案内などを行っている。金銭の報告としては出納の写しを送り、家族訪問時にサインをもらっている。ただし、金銭出納は利用料請求書と共に月1回送っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議で出る家族からの意見の他、苦情は特に無い。国保連から来る苦情処理のポスターを誰でも見える位置に掲げている。また、苦情処理チラシを家族に送っている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者は1ヶ月前にその旨を報告しており、その間の半月は、新入職員と重複して介護の指導に当たっている。よって、利用者への負担は最小限に抑えられている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業計画の中に勉強会・研修会が組み込まれており、2ヶ月に1回は実施している。また、同一法人での勉強会は年4回企画され、これも実施されている。毎年取り組まれた成果がケアマネージャー4名、介護福祉士4名、計8名の有資格者の誕生となった。近々介護福祉士1名の有資格者が期待される。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>南北海道グループホーム協議会のDブロックに所属し、交流会などの参加を促されているが、互いの事業所の時間帯が合わず、実施は困難になっている。</p>		<p>2月にボーリング大会が実施されたが、事業所対抗の試合になり、情報の交換迄には至らなかった。今後、相互訪問などの活動を通じて、サービスの質の向上につなげられるよう期待する。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前見学として事業所を訪問したり、管理者は家庭訪問して、馴染みの関係を築くため、あくまでも利用者の視点に立って話し合っている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>家族からの聞き取りによる、本人の生活歴などを参考に、趣味、好物の食物などを把握し、一緒に暮らす同志として支え合う関係が築かれている。特に、料理など職員が教わる事が多く、日常の食事の参考になっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の発した言葉や表情などから、その真意を推し測り、本人本位を念頭にしたケアに努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一部センター方式を取り入れ、あくまでも本人のための介護計画であるよう、全職員が意見の交換をしながら、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し期間は6ヶ月毎としているが、事業所開設以来、8年2ヶ月が経過しており、利用者の身体機能にも変化が見受けられ、その都度、新しい計画を作成している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者のかかりつけ医への受診の為の送迎や、自宅迄の一時帰宅、買物、お墓参りなど臨機応変の対応で支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>運営者でもある医師のクリニックが隣接しており、週1回の往診がある。また、定期的に健康管理の為、血液検査も行われている。なお、家族の要望により、他の医療機関の受診も支援している。</p>		<p>常勤の看護師により利用者は週2回、血圧、体重等の計測を受け、状況把握につなげる為、書類に記録されている。</p>
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>平成21年1月、利用者の一人(女性86歳)が亡くなった。医師、看護師、管理者、職員が一丸となり、昼夜の区別なく看護介護に当たったが、肺炎を併発し、かかりつけ医の病院で4日後に亡くなった。</p>		<p>この一件により、全職員が一層団結し、終末期に向けた取り組みを共有することにつながった。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全職員が一番に心がけている事として、言葉づかいがある。一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を守ること、このことを常に話し合っている。なお、個人情報などの書類は、厳重に保管されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者それぞれにペースがあり、職員はつねにゆとりをもって接するよう努めている。本人の希望を優先する支援になっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けも、利用者自ら進んで行っている。好みも考慮しながらの献立になっていて、調理の味付に満足しながら、楽しい食事になっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応週2回、入浴日と設定されているが、毎月、第1、3、5の日曜日は希望により自由入浴日となっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人や家族より聴き取りをした生活歴や、日々の暮らし振りより判断し、能力に見合った役割、趣味など楽しめるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い敷地内での散歩は職員付き添いのもと、日常的に行われている。買物等は近くに店は無く、車での買物となるが、1台の車をグループホーム「第2やわらぎ」と共同使用の為、本人の希望通りにはなっていない。		これより春夏にかけ、趣味の畑仕事もよいが、大型店への買物等、極力本人の希望にそえるように支援したいもの。管理者は法人の総括事務長とよく相談の上、利用者の要望を叶えてあげられるよう努力されるよう期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はなく、利用者の自由な外出については、行動範囲を把握している為、見守り支援をしている。夜間8:00~翌朝、早出職員の出勤時の7時迄施錠されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>消防署員の協力を仰ぎ、利用者も参加の定期訓練が実施されている。同一法人の老人施設との連携はあるが、地元住民の協力を得るまでには至っていない。</p>		<p>運営推進会議に於いて、これを議題にし、町内会長の協力を得て、早期に地元住民の理解を得られるよう、取り組みが望まれる。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>同一法人の老人保健施設の栄養士による栄養バランスのアドバイスを受けており、水分摂取については、日常、1,000ml以上をめどにしている。ただし、入浴後は1,200ml以上とし記録している。</p>		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>築8年を経過した居間（共用空間）等は、職員の日々の努力により清潔が保たれている。高い天井から注がれるやわらかな陽射しは、利用者を優しく、ゆったりとした雰囲気になっている。「ダンロ」には火は入っていないが、ほのぼのとした暖かさが感じられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>火気発生の危険性のある物の他は、家庭で使われた品々が整理整頓されている。テレビ、冷蔵庫、タンス、仏壇、小物入等本人が過し易いように工夫されている。</p>		

 は、重点項目。